

意思決定支援



意思決定支援はなぜ必要なのか？大切なのか？

本人の意思や価値観を尊重しつつ、情報不足や判断の難しさを補い、納得できる選択とその実現を助け、専門的で複雑な選択肢をわかりやすく整理し、本人が主体的に決められるよう支える役割があります。

①情報が専門的で複雑だと、ご本人だけでは理解が難しくなる。

②認知力、障がい、病気などで意思形成・表出が難しくなる。

③家族や専門職の価値観が混ざり、本人の希望が埋もれやすい。

④人生において様々な場面での選択がある。

意思決定支援に係る各種ガイドライン

	障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン	認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン	人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン	身寄りがない人の入院及び医療に係る意思決定支援ガイドラインが困難な人への支援に関するガイドライン	意思決定支援を踏まえた後見事務のガイドライン
策定時期	平成29年3月	平成30年6月	平成19年 (平成30年3月改訂)	令和元年5月	令和2年10月
誰の(意思決定)支援か	障がい者	認知症の人	人生の最終段階を迎えた人	医療に係る意思決定が困難な人	成年被後見人等

厚生労働省 意思決定支援等に係る各種ガイドラインの比較について

障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援 ガイドライン

ガイドラインは、事業者がサービス等利用計画や個別支援計画を作成してサービスを提供する際の障害者の意思決定支援についての考え方を整理し、相談支援や、施設入所支援等の障害福祉サービス（以下「サービス」という。）の現場において意思決定支援がより具体的に整理し、事業者がサービスを提供する際に必要とされる意思決定支援の枠組みを示し、もって障害者の意思を尊重した質の高いサービスの提供に資することを目的とするものである。

ガイドラインは、事業者がサービスを提供する際に行う障害者の意思決定支援の枠組みを示すものであるが、本人、事業者、家族や成年後見人等（保佐人及び補助人並びに任意後見人を含む。以下同じ。）の他に、必要に応じて教育関係者や医療関係者、福祉事務所、市区町村の虐待対応窓口や保健所等の行政関係機関、障害者就業・生活支援センター等の就労関係機関、ピアサポーター等の障害当事者による支援者、本人の知人等の関係者、関係機関等（以下「関係者等」という。）、障害者に関わる多くの人々にも意思決定支援への参加を促すものである。

意思決定支援の枠組み

(1) 意思決定支援責任者の配置

意思決定支援責任者は、意思決定支援計画作成に中心にかかわり、意思決定支援会議を企画・運営するなど、意思決定支援の仕組みを作る等の役割を担う。サービス管理責任者や相談支援専門員が兼務することが考えられる。

(2) 意思決定支援会議の開催

意思決定支援会議は、本人参加の下で、意思決定が必要な事項に関する参加者の情報を持ち寄り、意思を確認したり、意思及び選好を推定したり、最善の利益を検討する仕組み。「サービス担当者会議」や「個別支援会議」と一体的に実施することが考えられる

(3) 意思決定が反映されたサービス等利用計画や個別支援計画（意思決定支援計画）の作成とサービスの提供

意思決定支援によって確認又は推定された本人の意思や、本人の最善の利益と判断された内容を反映したサービス等利用計画や個別支援計画（意思決定支援計画）を作成し、本人の意思決定に基づくサービスの提供を行うことが重要である。

(4) モニタリングと評価及び見直し

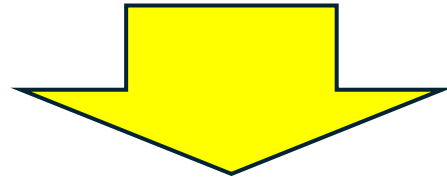
意思決定支援を反映したサービス提供の結果をモニタリングし、評価を適切に行い、次の支援でさらに意思決定が促進されるよう見直すことが重要である。

国連・障害者権利委員会 一般的意見1号 (条約第12条)

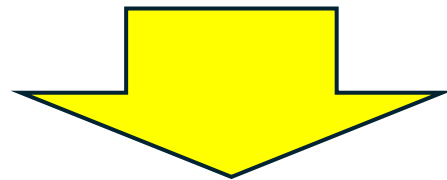
- Para21. 著しい努力がなされた後も、個人の意思と選好を決定することが実行可能ではない場合、「意思と選好に基づく最善の解釈」(best interpretation of will preferences)が「最善の利益」の決定に取ってかわらなければならない。これにより、第12条第4項に従い、個人の権利、意思及び選好が尊重される。「最善の利益の原則は、成人に関しては、第12条に基づく保護措置ではない。障害のある人による、他の者との平等を基礎として法的能力の権利の享有を確保するには、「意思と選好」のパラダイムが「最善の利益」のパラダイムに取ってかわらなければならない。

(公益財団法人日本リハビリテーション協会訳)

「意思決定支援」をする主体は誰でしょう？

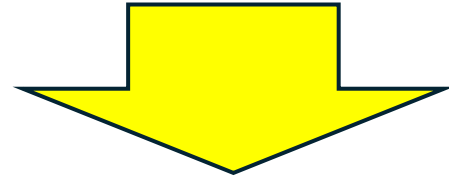


「意思決定支援」をする主体は誰でしょう？

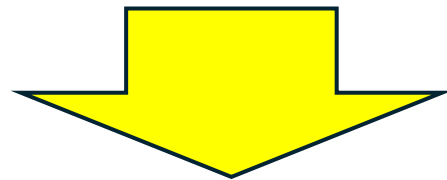


主体は支援者

「支援された意思決定」をする主体は誰でしょう？



「支援された意思決定」をする主体は誰でしょう？



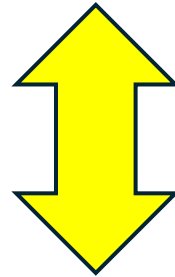
主体は本人

私たちには、意思決定をする権利があります。

(一人で意思決定することが難しい場合)

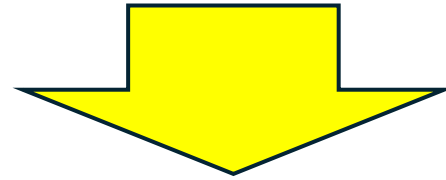
私には、支援された意思決定をする権利があります。

意思決定をする主体は本人

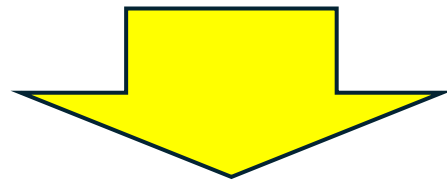


支援者はサポーター

「意思決定支援」は、目的ですか？手段ですか？

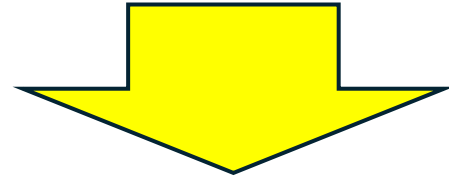


「意思決定支援」は、目的ですか？手段ですか？

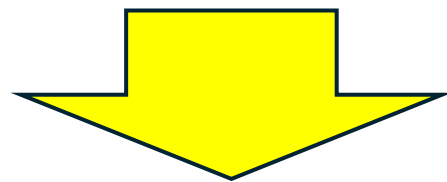


手段

「意思決定支援」の、目的は何ですか？



「意思決定支援」の、目的は何ですか？



本人が意思決定できること

でも、本人の意思決定がなかなか、
なされていないのが現状・・・。

意思決定を阻む要素とは…

- 話せなければ言葉（意思）がないと思ってしまう…。
- 表明がなければ、意思がないと思ってしまう
- 障害があることで、達成できる能力がないと判断してしまう
→ 本人の可能性を信じることができない

その理由はどこにあるのでしょうか

意思決定を阻む要素とは…

サービス提供
機関の事情・利益優先

意思決定を阻む要素とは…

サービス提供
機関の事情・利益優先

安全を保障できない
責任を持ちかねる
(リスク回避)

意思決定を阻む要素とは…

サービス提供
機関の事情・利益優先

安全を保障できない
責任を持ちかねる
(リスク回避)

情報・経験の不足

意思決定を阻む要素とは…

サービス提供
機関の事情・利益優先

安全を保障できない
責任を持ちかねる
(リスク回避)

情報・経験の不足

先回りの支援
(パターナリズム)

本人の特性・能力に関わる要因

環境・社会的要因（社会的障壁）

★ 愚行権

他人に迷惑をかけない限り、他者から見て愚かだと判断される行為（例：過度な飲酒、治療拒否など）であっても、本人が自由に行う権利

障がいの有無にかかわらず、誰しものが「失敗から学ぶ」権利があり、支援者は本人の選択（例：一見無駄に見える選択）を尊重しつつ、リスク説明を行い、「本人にとっての最善の利益」を一緒に追求する姿勢が求められる。

「意思決定支援」と「安全配慮義務」バランスが重要！！

「意思決定支援」における基本的考え方

意思決定を構成する要素

(1) 本人の判断能力

(2) 意思決定支援が必要な場面

①日常生活における場面

②社会生活における場面

(3) 人的・物理的環境による影響

意思決定支援の基本的原則

(1) 本人への支援は、自己決定の尊重に基づき行うことが重要

本人への自己決定にとって必要な情報の説明は、本人が理解できるよう工夫して行う

(2) 職員等の価値観において不合理だと思われる決定でも、他者への権利を侵害しないのであれば、その選択を尊重するように努める

(3) 本人の自己決定や意思決定がどうしても困難な場合は、本人を良く知る関係者が集まって、本人の日常生活やサービス提供場面における表情や、行動に関する記録などの情報、これまでの生活史、人間関係などの情報を把握し、根拠を明確にしながら障害者の意思及び選好を推定する

3つの考え方（基本理念・原則）

■ 最善の利益

ベスト・インタレスト

□代理代行決定に関する考え方

■ 意思の推定

意思と選好に基づく最善の解釈

□代理代行決定～支援付き意思決定に関する考え方

■ 本人の意思

エクスプレス・ウィッシュ

□本人から表出された意思・心からの希望

国連・障害者権利条約12条

- 1 締約国は、障害のある人が、すべての場所において、法律の前に人として認められる権利を有することを再確認する。

- 2 締約国は、障害のある人が生活のあらゆる側面において他の者との平等を基礎として法的能力を享有することを認める。

- 3 締約国は、障害のある人がその法的能力の行使に当たり必要とする支援にアクセスすることができるようにするための適切な措置をとる。

- 4 締約国は、国際人権法に従い、法的能力の行使に関連するすべての措置には濫用を防止するための適切かつ効果的な保護が含まれることを確保する。当該保護は、法的能力の行使に関連する措置が障害のある人の権利、意思及び選好を尊重すること、
(後略)

3つの考え方の優先順位

■ 本人の意思

エクスプレス・ウィッシュ

□ 本人から表出された意思・心からの希望



■ 意思の推定

意思と選好に基づく最善の解釈

□ 代理代行決定～支援付き意思決定に関する考え方



■ 最善の利益

ベスト・インタレスト

□ 代理代行決定に関する考え方

ベスト・インタレスト(最善の利益)は最後の手段

表出された意思
心からの希望
エクスプレス・ウィッシュ

意思と選好に基づく
最善の解釈

(客観的な) 最善の利益
ベスト・インタレスト

本人を優越しない

本人を優越する

本人から出る意思

周囲からの意見

意図して表出

意図して／せず表出

解釈を許さない

解釈する

← 支援つき意思決定 / 代理代行決定 →

令和6年度サービス管理者・児童発達支援管理責任者指導者養成研修会「意思決定支援」における基本的考え方より

支援つき意思決定と代理代行決定の違い

1	支援つき意思決定	<u>本人が</u> 意思決定の主体 表出された意思・心からの希望
2	代理代行決定	<u>第三者が</u> 意思決定の主体 意思と選好に基づく最善の解釈

意思決定の主体は・・・ご本人

支援つき意思決定の主体は・・・ご本人

代理代行決定の意思の主体は・・・第三者

日常生活における意思決定とは

- 必ずしも法律行為に至らない
- 必ずしも重大な医療上の判断を求めない
- 時間に制限されない
- 意思の表明・表出および決定である。

日常生活として基本的な生活習慣や生活参加に係る行為、すなわち食事、衣服の選択、外出、排泄、整容、入浴等基本習慣であるとか、あるいは余暇活動、障害福祉サービスの利用等であって、事実行為の要素が強い(3つのガイドラインから抜粋、編集)

法律や医療上の重大な意思決定と 日常生活における意思決定の違い

- ☐ 今もしくは近々に（どうしても）決めなければならないか
- ☐ 決定者の確定、責任の所在
- ☐ 決定帰結の活用
- ☐ 継続性・修正可能性（形成性）
- ☐ 本人（被後見人等）の意思能力判定の適用基準
- ☐ 代理代行による決定までを必要とするか否か

レスキューモデルとエンパワメントモデル

□ レスキューモデル

- 【状況】解決の要請程度が高い、緊急性がある、時間的に限りがある（切迫性がある）、ような場合
- 【目標設定】本人の抱える課題や不適切な生活を改善し、相対的に安定した状態に至らせる。本人意思の確認や「最善の解釈」に必要な情報の収集に努力するが、必ずしも十分にはできない
- 【支援の在り方】結果、最善の利益を尊重もしくは配慮した、代理代行決定に至ることも多い。
- 【本人以外から始まる意思決定】

レスキューモデルとエンパワメントモデル

□ エンパワメントモデル

- 【状況】差し迫った解決要請ではなく、本人の意思決定がより高められることに目標がある。時間的に差し迫っていない。
- 【目標設定】本人意思をより良く表出できるようにし、意思決定に関する自己効力感（セルフ・エフィカシー）を高める。自分で決めるプロセスを拡大しながら、より長期的な目標につなげていく。
- 【支援の在り方】「表出された意思」や「意思と選好に基づく最善の解釈」を適用する。重要なのは、自己選択と管理（チョイス&コントロール）が高まるようにすること。意思決定支援の実施よりむしろ、意思決定支援の関わり方を育てる。（本人も支援者も育つ）
- 【本人から始まる意思決定】

日常生活における意思決定の支援との接続

(情報を反映)

(支援結果を考慮)

エンパワメントモデルの相

レスキューモデルの相

エンパワメントモデルの相

- ・“決めたいこと”に対応
- ・決めやすい環境形成、自己効力感(セルフ・エフィカシー)を高める
- ・選好の収集

- ・“決めなければならない”事態に対応

- ・“決めたいこと”に対応
- ・決めやすい環境形成、自己効力感(セルフ・エフィカシー)を高める
- ・選好の収集

(日常生活)

(非日常生活な事態)

(日常生活)

意思決定の支援の層

代理代行決定、Best interests meeting



手順が第三者に聞かれ、帰結が公に利用される

個々の意思決定場面
に対する支援

- ・日常の意思決定支援（意思疎通支援・意思形成支援・環境調整）
- ・危急時の意思決定支援／レスキューモデル
- ・困難な人の支援／コミュニケーションの工夫
- ・「意思と選好」の活用

意思決定を育てる
／支援を育てる

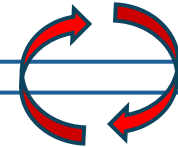
- ・内発的動機付け／自己効力感の形成／エンパワメントモデル
- ・エクスプレス・ウィッシュ／小さくても自分自身の願い
- ・支援のチーム形成／チームも育つ／ストレングスモデルとの関連
- ・決定支援に対する感度を高める

環境の整備

- ・話しやすい場所、時間、相手、方法など
- ・意思決定支援に関する考え方、態度やルール共有／保護からの踏み出し、「リスクの尊厳」
- ・研修の実施／協議の場の形成
- ・選好情報の収集・蓄積・共有・更新

豊かな経験

- ・多くの体験→選択肢を得る体験
- ・決定と表出の良い経験
- ・内発的動機付け・自己効力感への配慮



決定の実現とその支援

（名川(2016)を改編）

意思決定の支援の層

個々の意思決定場面 に対する支援

- ・日常の意思決定支援（意思疎通支援・意思形成支援・環境調整）
- ・危急時の意思決定支援／レスキューモデル
- ・困難な人の支援／コミュニケーションの工夫
- ・「意思と選好」の活用

（Ⅰ）【個々の意思決定場面に対する支援】

私たちが意思決定支援と言っている関わりの多くがここで行われています。

本人から「～したい」と言われたり、あるいは周囲の人が「どうしたいの？」と問うことが行われます。そこではレスキュー・モデルもエンパワメント・モデルもありますが、機能的にはレスキューだけをこちらに置きます。（エンパワメントは次の層に置く）。

その場で本人意思を確認するための様々な工夫や取り組みが試みられます。必要に応じて意思と選好に関する情報を収集するし、またそれまで収集された情報も活用して答えを出そうとします。

これが通常私たちが意思決定支援と言っている関わりにあたります。しかしこれは表層的なのであって、その他にいくつかの取り組みがあります。

意思決定の支援の層

意思決定を育てる
／支援を育てる

- ・内発的動機付け／自己効力感の形成／エンパワメントモデル
- ・エクスプレス・ウィッシュ／小さくても自分自身の願い
- ・支援のチーム形成／チームも育つ／ストレングスモデルとの関連
- ・決定支援に対する感度を高める

(2)【意思決定を育てる／支援を育てる】

上記のような意思決定や意思表示を行えるようになるための取り組みです。レスキュー・モデルの相では行えませんので、もっぱらエンパワメント・モデルの相で行われます。

内発的動機付けに留意し、本人の自己効力感が増すことを心がけます。『決めて良いんだ、意思を伝えて良いんだと理解』され、決定や表明の行動頻度や強度が向上する結果を期待します。そのためには、日常生活の中で押し付けではない「小さくても自分自身の望み、エクスプレス・ウィッシュ」を育てることが重要となります。

また支援者もこのような本人の自発的な決定を喜び歓迎するようにします。次の機会につなげ、意思表示の可能性を広げます。そのように日々気をつけて関わることで、すなわち本人に意思や選好に対する支援者の気付きの感度を上げることになります。つまり支援者も育っていく必要があります。

意思決定の支援の層

環境の整備

- ・話しやすい場所、時間、相手、方法など
- ・意思決定支援に関する考え方、態度やルールの共有／保護からの踏み出し、「リスクの尊厳」
- ・研修の実施／協議の場の形成
- ・選好情報の収集・蓄積・共有・更新

(3)【環境の整備】

本人にとって決定・表明しやすい環境があります。それらを個々に合わせて理解し整えることに努めます。

環境というのは、それだけには留まりません。周囲の支援者内で、意思決定とその支援に関する考え方や態度を共有することが非常に重要です。

また研修を行ったり、協議の場（意思決定に関する話し合いの場）を準備することも含まれます。「リスクの尊厳」に対しても十分に学び合うべきでしょう。

選好情報について、地道に収集・蓄積・共有・更新することも環境整備のひとつです。ここでの準備が、(1)(2)の取り組みに繋がります。

意思決定の支援の層

豊かな経験

- ・多くの体験→選択肢を得る体験
- ・決定と表出の良い経験
- ・内発的動機付け・自己効力感への配慮

教育的な活動とも強く関わりとともに、学校卒業後も継続して重要です。

「豊かな経験」にはいくつかの意味があります。

まず1つは、「自分の中に選択肢をたくさん作る」ことです。取り組みにおいて、決定や選択の支援として、わかりやすい選択肢を準備するということがあります。選択肢の説明や絵・写真の利用なども含まれます。ずっと選択肢を経験として提供してこなかったのに、大人になるとさあ選べということが多いのではないのでしょうか。このような準備をすることは、私たちの課題です。

2番めは、好きなものを選ぶ経験をたくさん作ることです。**先と違うのは、これが選択肢ではなく、自分で選ぶ機会そのものの体験であることです。**これは能力の問題ではありません。自分で決めて良いことを知り、自分の好き嫌いを知り、他の人と違う自分の買い物を楽しむ積み重ねが必要です。

3番めは、周囲の人も本人の好みを尊重し大切にすることです。

以上のように、【豊かな経験】は本人がどうこうではなく、**周囲の人の問題であり課題であることを、ここで改めて確認しておきたいと思います。**

どうしたいか、を豊かな経験によって育む ／周囲が大切にする

☐ 自分の中に選択肢をたくさん作る

- ☐ 選択肢を作ってこなかったのに、さあ選べと言われても無理

☐ 好きなものを選ぶ経験をたくさん作る

- ☐ 能力の問題ではない
- ☐ 自分の好きなものが自分で分かるためには、選ぶ経験を大切にする

☐ その人の好みを周りも大切にする

- ☐ その人が大事にしていることを周りも大事に扱う

情報を収集するにあたっては

- 安心・安全の保障
- ご本人から話を聴く
- 障がい特性にあった情報収集の方法について検討
- 普段の様子をよく観察する
- 表情・態度から読み取る
- 関係者から話を聴く
- 記録から読み取る

意思と選好

ご本人を知ることが意思決定支援には不可欠です。

ご本人が言葉で語ってくれる意思のほか、普段どんなことを好むのだろうかという選好を知っておくこと、また、どんなことを嫌がるのだとうということを知っておくこと、ご本人が立体となって浮かび上がるアセスメントが必要です。

信頼関係の構築

ご本人のこと、特性、適切なコミュニケーションの取り方を良く知ることが大切です。

1, 本人をよく知ること

⇒好きなこと、嫌いなこと、得意なこと、苦手なこと など

2, 本人を知るための関係づくりやコミュニケーションの取り方を知ること

⇒相手の興味や関心のあること、価値観を知って活かす

意思の選好（プレファンス）情報の 収集・共有・蓄積・更新

- みんなで選好の収集を続ける。非意図的なメッセージや行動もよく観察し、発生や繰り返しの頻度、反応などを勘案。
- 得られた情報を共有、協議して、独り善がりの判断を回避する。また多くの支援者がその選好に気づけるようにし、感度を高める。
- 絶えず蓄積し、整理する。
- 選好は変わり続けるので、以前と異なることが共有されたら更新する。

意思の選好（プレファンス）情報の 収集・共有・蓄積・更新

- 「最善の解釈」を行なうための基礎資料を集める
- 「意思決定支援」のプロセスを共有・確立し、独り善がりの「解釈」を排する。
- 本人意思に対する、支援者の気づき（感度）を高める
- 本人の持つ「価値観」への気づきと尊重を高める
- 価値観の尊重はソーシャルワークの基盤であり、価値観は選好を反映し形成される。

いつどのように行うか

- 主として、「エンパワメントの相」で継続的に行われる
「レスキュー型の相」でも活用される
- 打合せなどの機会を利用して、また日報などの活用
「選好」に関わる活動や発言があったか？
- 具体的に、明確に、客観と主観を整理していく
- 安全性（リスク）と幸せ（ウェルビーイング・幸福度）の観点から総合的に判断する

情報収集まとめ

- 本人の選好や価値観を収集・蓄積・共有・更新することは、支援付き意思決定の場面でも意思推定（最善の解釈）や主観的最善の利益に基づく代理代行決定の場面においても、支援者の独り善がりの判断とならないためにも重要である。
- 本人の選好や価値観の収集等のためには、支援者の日々の気づきと記録化のためのスキルが求められる。
- 本人の「微かに聞こえる声を聴く」ことにより、本人の自己効力感を高めつつ、支援者自身の変化にも繋げることが重要

意思を決定する支援

どんなに重度の障がいのある方でも、こどもでも、必ず「意思」や「思い」、「気持ち」があり、自分で決めることができる可能性があるという前提。

意思決定支援の流れ

意思形成支援



意思表出支援



意思決定支援

- ・人の環境は整っているか
- ・様々な経験を積む機会はあるか
- ・様々な情報提供はされているか
- ・幼少期から年齢に応じて選ぶ機会が提供されているか

- ・本人が自らの意思を表出・表現できるように具体的に支援されているか
- ・表出されている意思に気づく支援者であるか

令和8年度

福島県サービス管理責任者等基礎研修

共通講義アンケート

<https://forms.gle/yiKtpVtP77kKZkAJ9>

※途中入力は可能ですが
最後の送信は受講後にお願い
します。

アンケート回答期限 10月5日

